

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市大野田児童館	
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 34,872人(前年度比105.7%) ・令和4年度 32,996人 ・令和3年度 27,736人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 64,989千円 (60,165千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した丁寧な育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
<p>令和5年度は、「まずはやってみよう～笑顔いっぱいの未来のために～」をスローガンに掲げ、子ども主体の児童館運営に努めました。</p> <p>【児童健全育成事業】 よく遊びに来る中学生が小学生と一緒に遊び、庭の手入れや野菜の苗植えの手伝いなどをしてくれました。誰かのために行動することの大切さ、人から感謝されることの嬉しさが実感でき、中学生たちの活動の幅を広げることができました。</p> <p>【子育て家庭支援事業】 転出入が多い地域特性を踏まえ、地域のことや子育てについて話し合える場、情報交換の場を設けました。お子さんの発達や、子育てに悩む母たちのために、たんぼぼホームと共催し「ペアレントプログラム」を実施することで、子育てに関する様々な相談ができ、子育てする保護者同士の関係作りもできました。子育て支援クラブ「あゆたん」と共催をし、毎年恒例の「おさがり会」を年2回開催しました。</p> <p>【地域交流推進事業】 地域の方々と一緒にボールウォーキングを実施し、児童が作成した防犯マップを元に、楽しく地域を歩き、防犯・防災について考える機会を設けました。また、地域の体育振興会と共催し、小学校校庭で毎月第三土曜日にモルック練習会を開催しました。地域の老若男女問わず楽しく活動することができ、児童館の活動の場を広げました。</p> <p>【放課後児童健全育成事業】 館まつりでは、「忍者」をテーマに、子ども実行委員が中心となり企画運営をしました。看板・ポスターづくり、館内装飾、ポスター設置依頼、お神輿の製作や巡行をし、子どもたちの主体性や協調性を育みました。 毎日の活動の中にだれでも楽しく身体を使って遊べるJUMP-JAM運動遊びプログラムを導入し、異学年交流を図りました。勝ち負けを決めるのではなく、仲間と楽しく運動遊びができるよう支援しました。「こども会議」では、様々なことについて、自らが考え話し合い、職員は寄り添った支援をしました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、地域の中で浸透している「スポーツデイ」は、継続的に実施していた卓球やパドミントンに新たにモルックも加えた。小学校校庭や学区外の市民センターでモルック講座を実施し、学区外の児童も参加する等、子どもの興味関心を広げる活動を提供している。また、自由来館の中学生が遊びのリーダー的存在として放課後児童クラブの児童と一緒に遊んだり、野菜の苗植え等の異年齢による集団活動を通して、社会性や主体性、自己肯定感を育んでいる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、転出入家庭の多い地域であるため「うえるかむ大野田」を年2回設け、地域の情報交換や母親同士の交流ができる場を提供している。また、たんぼぼホームと共催して「たんぼぼサロン」や「ペアレントトレーニング」を実施し子どもの発達や子育ての様々な相談に対する援助をしたり、地域との関係者と積極的に連携を図りながら子育てを支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の方々と一緒に「ボールウォーキング交流」を開催して防犯や防災について考える機会を設けたり、地域の公園等のごみを拾う「グリーン作戦」を実施して児童館周辺の環境美化活動を行うなど、地域との交流を広げ子どもが地域と関りながら育つ環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、高学年の子どもが自主的に「サポーター」となって低学年の生活や遊びのリーダーとして活躍したり、定期的に「子ども会議」を実施して児童館での生活や遊びについて話し合う機会を設けている。子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、子どもの発達段階に応じて主体的な遊びや生活が可能になるような支援を行っている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課